



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

3月号—No.310
2021.2.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【左伊多津万色(さいたづまいろ)】虎杖(イタドリ)の葉のような黄色がかった濃い緑色。

イタドリは葉を傷に貼ると痛みが取れることから付いた名前。山菜として食べる「スカンボ」「イタズリ」は別名。茎に赤紫の斑模様があり、茎が空洞で竹のように早く育ち、杖としても使われることから漢字で「虎杖」と書く。左伊多津はイタドリの古名で、若芽から葉になったばかり様子が「咲いた妻」のようだと歌われたことに由来するとか。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和2(2020)年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設決定

財団からのお知らせ..... 6

「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」公開プレゼンテーション開催のお知らせ / 「公立ホール邦楽活性化事業」令和4(2022)・5(2023)年度登録演奏家募集 / 令和2(2020)年度ステージラボオンラインセッション「アーカイブ箱」ページ公開のお知らせ / 令和2(2020)年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」各地の取り組み / 雑誌「地域創造」第46号発行

今月の情報..... 8

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

横浜市 横浜ダンスコレクション2021

令和2(2020)年度 地域創造大賞(総務大臣賞) 受賞おめでとうございます。

令和2年度地域創造大賞(総務大臣賞)受賞施設

- 名取市文化会館 [宮城県名取市]
- 山梨県立県民文化ホール(YCC県民文化ホール)[山梨県]
- 知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)[愛知県知立市]
- 河内長野市立文化会館(ラブリーホール)[大阪府河内長野市]
- 新居浜市美術館及び新居浜市総合文化施設
(あかがねミュージアム)[愛媛県新居浜市]
- 徳之島町文化会館 [鹿児島県徳之島町]

この度、令和2年度地域創造大賞(総務大臣賞)の受賞施設を決定いたしました。
表彰の栄に浴された地方公共団体及び施設の皆様、誠におめでとうございます。

この賞は、平成16年度に創設し、これまでに全国で123の施設がこの表彰をお受けになりました。17回目となる今年度も、全国からたくさんの応募がございました中から、田村孝子委員長をはじめとする専門家の方々からなる審査委員会におきまして、厳正・公平な審査を行っていただきました。

6つの受賞施設は、当財団が提唱し推進しております住民参加やアウトリーチなどの手法を積極的に取り入れるとともに、地域の特徴を生かした事業を継続的に実施することにより、いずれも地域の活性化に貢献されている施設です。コロナ禍というきわめて厳しい状況の中、これまでの活動の積み重ねと熱意が評価され意義深いものと考えます。

今回、受賞されました関係の皆様、あらためて心からお祝いを申し上げますとともに、これを契機に、ますますのご発展を期待いたします。当財団といたしましても、うるおいのある元気な地域づくりを進めていくため、今回の受賞施設をはじめとします全国の関係者の皆様と共に、なお一層の努力をしまいたいと存じております。

一般財団法人 地域創造
理事長 山本 信一郎

●地域創造大賞審査委員会

委員長	田村 孝子 (文化ジャーナリスト、公益社団法人全国公立文化施設協会 副会長)
委員長代理	吉本 光宏 (株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事(社会研究部 芸術文化プロジェクト室長兼務))
委員	熊倉 純子 (東京芸術大学大学院国際芸術創造研究科長 教授)
委員	小林 真理 (東京大学大学院人文社会系研究科 教授)
委員	坪池 栄子 (株式会社文化科学研究所 編集プロデューサー)
委員	仲道 郁代 (ピアニスト)
委員	柳沢 秀行 (公益財団法人大原美術館 学芸課長)
委員	山本 信一郎 (一般財団法人地域創造 理事長)

*五十音順

◎地域創造大賞(総務大臣賞)に関する問い合わせ 総務部 三田 Tel. 03-5573-4184 taishou@jafra.or.jp

名取市文化会館【宮城県名取市】

文化による“心の復興”に尽力



長年にわたり子どもたちへの音楽アウトリーチ事業に力を入れ、東日本大震災の被災下でも支援演奏を展開。以来、市内全小学4年生へのアウトリーチに加え、仙台フィルハーモニー管弦楽団と協働した「Art for Kids@なとり わくわく楽しい音楽会」、仙台高等専門学校と協働した親子向け全館イベントなど、文化による心の復興に尽力した。

【運営】公益財団法人名取市文化振興財団

【開館】1997年

上：名取市文化会館外観／中：Art for Kids @ なとり 小学校アウトリーチ事業 西沢澄博（オーボエ）・小池まどか（ヴァイオリン）・梅津樹子（チェンバロ）／下：Art for Kids @ なとり わくわくパビリオン～和！っとおどろくたまてばこ

【受賞コメント】

名取市は、東日本大震災で沿岸部が壊滅的被害を受け、当館は約3カ月間避難所となりました。震災から10年の節目に荣誉ある賞をいただき光栄であり、心より感謝を申し上げます。

評価をいただいたアウトリーチは、震災以降市内全小学4年生を対象としており、音楽や楽器に興味を持った子どもたちへの次のステップとしてコンサートを開催し、豊かな響きに包まれるホールでの音楽体験、そして演奏家と再会する喜びを届ける事業として継続しています。また、ゴールデンウィーク期間中の子ども向け参加型企画「Art for Kids@なとり わくわくパビリオン」は、市内にある仙台高等専門学校と企画し、会館を利用した新しい遊び場として定着してきました。

コロナ禍により文化芸術の在り方が問われる中で、身体の健康と同時に心の健康を取り戻すためには文化芸術は必要不可欠です。

この度の受賞が、名取市の文化振興ならびに会館運営において大きな励みになると共に、地域の皆様に理解・関心を深められる契機となることを願っています。

山梨県立県民文化ホール（YCC県民文化ホール）【山梨県】

“県民に開かれた運営”により文化力を向上



“誰もが文化に触れられる、開かれる施設”を理念に、地元人材を発掘したオリジナル創作舞台、やまなしジュニアオーケストラ、多彩なワークショップを行う「あなたの文化を見つけよう!」、約60団体がステージに立つ「フェスタ県文」などを展開。地元の大学や高校とも連携するなど、県民に開かれた運営により文化力の向上に貢献した。

【運営】アドブレーン・共立・NTTファシリティーズ共同事業体

【開館】1982年

写真

上：山梨県立県民文化ホール（YCC県民文化ホール）外観
中：ミュージカル『シンデレラ～ねずみたちのプリンセス』
下：生演奏音楽劇『ヤマガヒ』

【受賞コメント】

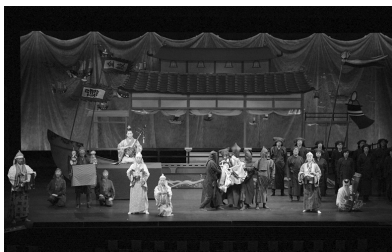
YCC県民文化ホールの指定管理者として「成すべきこと」と「出来ること」を熟慮しつつ事業に取り組んでいます。「成すべきこと」は、利用環境を整え、県民に優れた芸術作品の鑑賞機会を提供することであり、「出来ること」は、文化ホール施設や出演者らアーティストのノウハウを活用し文化と県民の距離を縮め、文化のある日常を提案することだと考えています。

こうした基本理念のもと、オリジナル作品づくりやワークショップの開催など多彩な事業を繰り広げ、県民に「いつでも文化が体験できる場所」「面白いことが始まる場所」というイメージを構築してきました。

文化と県民の距離を縮める取り組みは今後も進めていきますが、コロナウイルスの影響で参加型事業に支障が出ています。オンライン配信を積極的に取り入れ事態の解消に努めています。一層効果を上げるため、地域のケーブルテレビ局と連携しての配信も計画しています。

知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)【愛知県知立市】

地域の文化拠点として“伝統文化の支援”を推進



江戸時代から伝わる知立の山車文楽とからくりの保存継承を支援。町の人形連や、その垣根を越えた市民文楽団「ちりふ座」の拠点として、道具の保管、大阪文楽座の人形遣いによる指導、ホール公演、創作舞台などを展開。また、市内全小学校への音楽アウトリーチに力を入れるなど、地域の文化拠点として尽力した。

[運営] 一般財団法人ちりゅう芸術創造協会

[開館] 2000年

写真

上：知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)外観
中：国指定重要無形民俗文化財「知立の山車文楽とからくり」より山車文楽公演
下：20周年記念事業「おさき玉城恋の八橋」

【受賞コメント】

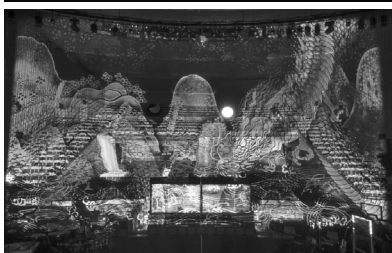
この度の受賞につきまして、市民並びに関係各位にお礼申し上げます。

当館は「地域にねぎす、したしみとにぎわいの会館」をスローガンに文化芸術発信拠点として、本年度20周年を迎えました。この間、様々な事業活動を展開しましたが、特に地元の伝統芸能である知立の山車文楽とからくりの保存継承・発展に向けた支援活動が評価されました。地元で伝わる逸話や文化財を題材にした新作の文楽創作劇『おさき玉城恋の八橋』は、これまでの活動の集大成として令和2年8月に上演致しました。知立と沖縄の歴史的関係性について描いた本作は多くの市民とともに地域に向けて発信することが出来、新たな文化遺産と言えます。

現在のコロナ禍において文化芸術も危機的な状況にある中、多くの市民に、自分の居場所を見つけ、明日への活力が得られる機会と場を提供できるよう今後も関係機関とともに連携強化して、劇場運営に邁進してまいります。

河内長野市立文化会館(ラブリーホール)【大阪府河内長野市】

“まちの文化広場”としてクリエイションに新境地



都市近郊型ホールとして市民とともにオペラや音楽祭などの独自事業に取り組むとともに、2007年から多彩な教室事業を展開。そこで育まれたアーティストとの繋がりをベースに創意溢れるオリジナル舞台「奥河内音絵巻」をプロデュースし、まちの文化広場として新たなクリエイションに挑戦した。

[運営] 公益財団法人河内長野市文化振興財団

[開館] 1992年

写真

上：河内長野市立文化会館(ラブリーホール)外観
中：ラブリーホール・ミュージカルスクール
下：奥河内音絵巻2020

【受賞コメント】

“すてき集まる、すてき広がる、ラブリーホール”当館のキャッチフレーズです。

皆様に親しまれ可愛がっていただけるように「ラブリーホール」という愛称をつけていただきました。

1992年の開館以来、市民文化向上の拠点として地域の皆様が集い、芸術に触れ、交流する“広場”として機能することで新たな芸術文化が生まれ、地域に向けて発信される。そのようなホールを目指して活動してまいりました。

今回このような栄えある大賞をいただけたことは、開館以来ラブリーホールに関わり、支えていただいた地域の皆様のおかげと心から感謝するとともに、取り組んできたことが間違っていないのだと素直に喜びたいと思います。

新型コロナウイルス禍において事業の実施が思うにまかせない今、この受賞を“現状に屈せず更に励め”とのエールと捉え、感染防止への工夫を重ねながら地域の皆様とともに芸術文化活動を進めてまいりたいと考えております。

新居浜市美術館及び新居浜市総合文化施設(あかがねミュージアム)(愛媛県新居浜市)

“ジャンルを超えた文化交流”によるコミュニティづくりを推進



新居浜駅周辺の賑わい創出と「新しい新居浜の創造」を掲げるシンボル施設。美術を中心に地域の歴史、産業、環境などに跨がる幅広い文化事業を展開。市民とつくるラジオ局「新居浜FM78.0」と連携した情報発信、「にいほSDGsアート・フェスティバル」など、新たな文化交流によるコミュニティづくりを推進した。

[運営] 新居浜市・あかがねミュージアム運営グループ

[開館] 2015年

写真
上: あかがねミュージアム外観
中: ラピスラズリの絵具づくり(青い壁プロジェクト)
下: 新居浜の先人と特別賞受賞作(にいほSDGsアート・フェスティバル2019)

【受賞コメント】

「創る・学ぶ・育む」、40年の構想を経て実現した「あかがねミュージアム」。美術館を中心に、小劇場、新居浜文化の3部門に加わったコミュニティーFM。ミュージアムボランティア、サポータークラブの皆様とともに、それぞれの独立性を保ちながらも有機的に連携し、開館5年余で100万人を超える方々が集いました。

美術館としては先鋭的な試みともいえる「にいほSDGsアート・フェスティバル」は、別子銅山経営300年の歴史の中で育まれたSDGs、豪雨災害から教訓を得たESD、ユネスコスクールの活動がその原点です。しかし、コロナ禍の中で、2021年の第2回フェスティバルではJICAほか活動家のご支援による海外からの作品募集がうまくいくのか心配です。

多くの方々の思いによりいただいた賞を励みに、20年、30年後、日本のアートシーンの1ページを飾ることができるような「社の中のオープンミュージアム」を目指していきたいと思います。

徳之島町文化会館【鹿児島県徳之島町】

文化交流による“心豊かな暮らし”に貢献



人口1万人の徳之島町の文化交流拠点。子どもたちの文化体験に力を入れ、小中高の吹奏楽部を応援する「子ども音楽フェスティバル」や「子ども文化祭」、保育園へのアウトリーチなどを展開。講座「島学」や5年に1度の島民劇により人材の育成を図るなど、文化交流による心豊かな暮らしに貢献した。

[運営] 楽しむ人の館

[開館] 1994年

写真
上: 徳之島町文化会館外観
中: 子ども音楽フェスティバル
下: 子ども文化祭

【受賞コメント】

私たちの徳之島には昔から“子は島の宝”という風土があります。文化ホールができるまでは本物の芸術に触れることなく、高校卒業と同時に100%近くの生徒が島外に出ていく状態でした。ホールができたことにより、離島かつ予算的にも乏しいハンディの中でも、町民や島民をはじめ各種助成団体の皆様のご協力により本物の芸術を提供でき、円滑に運営させていただいていることを評価していただき、支えて下さった皆様と共に喜びを分かち合いたいと思います。幼少から本物の芸術に触れることや、能動的に芸術にふれる習慣づくりは心の成長を育むことになり、将来徳之島町を担うであろう人材の育成にも繋がっていると考えます。

現在のコロナ禍にあっても、文化を繋いでいく大切さを再認識しております。

“こんな時代だからこそ万全を期して何とか実行できないか”を常に考え、これからも前向きに島民(利用者)と一緒に島の文化を支える一役を担って参りたいと思います。

財団からのお知らせ

●公共ホール音楽活性化事業に関する
問い合わせ
芸術環境部 山之内
Tel. 03-5573-4078

●公共ホール邦楽活性化事業に関する
問い合わせ
芸術環境部 永田
Tel. 03-5573-4076

●ステージラボオンラインセッション
「アーカイブ箱」
https://www.jafra.or.jp/project/training/online_lab02020/archive_box.html



●インタビュー映像コンテンツ
●さっぽろ天神山アートスタジオ
『2020年度AIR(アーティスト・イン・レジデンス)プログラム』
●富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ
『モガ深谷～記憶はだいたい盛気楼～(穴あき谷のおまつり編)』
●穂の国とよはし芸術劇場PLAT
『まちと劇場の技技交換所』
●山口情報芸術センター[YCAM]
『YCAMスポーツ・リサーチ』

●情報提供について
[対象となる情報]
全国の公立文化施設や地方公共団体等で行われた、地域との繋がりにオンラインを活用した文化・芸術に関する取り組み。
[情報提供フォーム]
<https://www.jafra.or.jp/event-request/archive2020/>

●問い合わせ
芸術環境部 児島・吉川・崎山
Tel. 03-5573-4183

●「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」 公開プレゼンテーション開催

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)の2020-2022年度登録アーティスト6組による公開プレゼンテーションを開催します。このプレゼンテーションは、令和3(2021)年度におんかつ導入プログラムを実施する団体を対象に行うものですが、今後、おんかつ事業の実施を検討している公共ホール担当者や当事業に関心のある方にも公開して行います。

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じて開催いたします。これに伴い、定員50名(申込順)とさせていただきます。

おんかつ公開プレゼンテーション概要

[日程] 2021年4月20日(火) 14:00開演(予定)

[会場] トップホール
(東京都文京区水道1-3-3)

[定員] 50名(申込順)

[締切] 2021年4月13日(火)

[内容] 各組20分程度のプレゼンテーション

[出演] 2020-2022年度登録アーティスト

齊藤一也(ピアノ)

石上真由子(ヴァイオリン)

梅津碧(ソプラノ)

竹多倫子(ソプラノ)

新野将之(打楽器)

高橋ドレミ&實川風ピアノデュオ(ピアノデュオ)

◎観覧を希望される方は、当財団ホームページの参加申込フォーム(<https://www.jafra.or.jp/event-request/21/>)よりお申し込みください(右QRコードよりアクセスできます)。



●「公共ホール邦楽活性化事業」令和4(2022)・5(2023)年度登録演奏家募集

この事業は、オーディションで選ばれた邦楽演奏家を地域のホールに派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム(アウトリーチ)やホールプログラム(コンサート、公募型ワークショップ)を実施するものです。令和4・5年度の事業実施に向けて、登録演奏家を募集します。事業の趣旨にご賛同いただける演奏家の方々からのご応募をお待ちしてお

ります。また、公立文化施設等の担当者の方々には、地域で活躍する演奏家をご紹介いただければ幸いです。

公共ホール邦楽活性化事業 令和4・5年度登録演奏家募集概要

[応募条件] 令和4年4月1日時点で、満20歳以上40歳以下の邦楽器演奏家。ジャンル、楽器の種類は問わないが、電子楽器は対象外とし、原則としてPA設備を使用せずにプログラムを組める楽器とする。

[募集要項] 募集要項および応募用紙は当財団ホームページの邦楽事業ページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/music/04.html>

[応募締切] 2021年5月7日(金)

[選考方法]

第1次選考：書類と音源による選考

第2次選考：演奏とプレゼンテーションによる選考(2021年7月6日実施予定)

●令和2(2020)年度ステージラボオンラインセッション「アーカイブ箱」ページ公開のお知らせ

今年度の研修交流事業「ステージラボオンラインセッション」の一環として、ご都合に合わせて活用いただけるウェブページ「アーカイブ箱」を当財団ホームページに開設しました。

地域の繋がりにどのようにオンラインを活用したのか、検討プロセスや実施した成果、課題などを紹介するインタビュー映像や、各地のそうした取り組みについて皆さんからお寄せいただいた情報(※)を公開しています。また、ステージラボオンラインセッションのアーカイブ版映像を順次追加予定です。

地域のなかで文化・芸術を発見し、育み、発信していくため、各地で事業に取り組まれた皆さんの声が集まっておりますので、今後の事業の参考にぜひご活用ください。

※引き続き情報募集中です。皆さまからの投稿をお待ちしております(左欄参照)。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和2(2020)年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」各地の取り組み

地域交流プログラム(アウトリーチ、公募ワークショップ)を実施するAプログラム、市民参加作品を創作し上演するBプログラム、アーティストのレパートリー作品を上演するCプログラムを、年度ごとに選択して継続的に事業の実施が可能な「ダン活」。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、10月より各地で事業がスタートしていますが、今年度は15団体の実施の予定からBプログラム3団体、Cプログラム5団体での実施となっています。

Bプログラムの福岡県宗像市(宗像ユリックス)では、先が読みづらい日々の中で、かけがえのない1日という意味を込めて、公演日の『12月20日』を作品のタイトルにした市民参加公演を実施しました。「参加者の今後の人生の糧となるような作品をつくりたい」というホール担当者の思いから、20歳以上を対象に公募で集まった9人の市民ダンサーがそれぞれの思い出や夢に焦点を当て、作品を創作し上演しました。

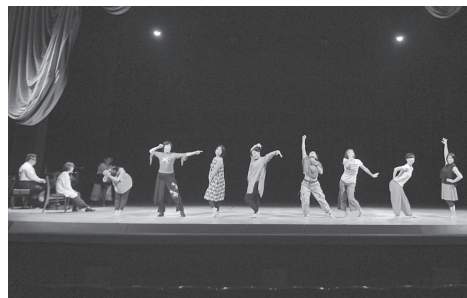
参加者からは、「この事業に参加しなければ出会えなかった人たちとの絆を深めることができた」「初めての舞台体験で、勇気を出して参加した。自分でも踊れるという自信がついた」という感想が聞かれ、それぞれの人生の中で特別な1日となりました。

これから実施予定のBプログラムでは、地元のキッズダンスチームの子どもたちとの作品づくり

や、市民参加者と共にホールのさまざまな場所で撮影するダンス映像作品と、映像を活用した舞台作品を創作する企画が予定されています。

Cプログラムの熊本県長洲町(ながす未来館)では、「地域に対してダンスを身近に感じていただきたい」というホール担当者とアーティスト共通の思いから、地域資源を生かし、町内に伝わる民話を題材とした公演を上演しました。他地域でのCプログラムでは、プロモーション映像の制作に初めて挑戦したり、公演本番のライブ配信を企画したりと、オンラインを積極的に活用した取り組みが行われ、ダンスの魅力を伝えました。

いずれの実施団体も、ダンス事業を通じた地域コミュニティの活性化を目指し、来年度以降の継続的な事業の実施を見据えています。各ホールの今後の事業展開が楽しみです。



市民参加公演の様子(Bプログラム・宗像ユリックス/アーティスト:長井江里奈) ©Tomiyoshi Works

●令和2(2020)年度ダン活実施団体(主会場/アーティスト/日程)

◎Bプログラム

- 福岡県宗像市(宗像ユリックス/長井江里奈/2020年10月10日~11日、12月14日~20日)
- 岩手県宮古市(宮古市民文化会館/北尾亘/12月18日~20日、2021年2月24日~3月1日)
- 山形県鶴岡市(荘銀タクト鶴岡/中村春/3月5日~7日、3月24日~29日)

◎Cプログラム

- 広島県三次市(三次市民ホール きりり/北尾亘/2020年11月19日~22日)
- 熊本県長洲町(ながす未来館/田村一行/11月19日~22日)
- 神戸市(神戸アートビレッジセンター/長井江里奈/2021年1月14日~17日)
- 福島県白河市(白河文化交流館 コミネス/康本雅子/1月28日~31日)
- 高知県土佐清水市(土佐清水市立市民文化会館 くるしおホール/田村一行/3月19日~22日)

●公共ホール現代ダンス活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 栗林・青井・畑
Tel. 03-5573-4055・4077

●雑誌「地域創造」に関する問い合わせ

芸術環境部 吉川
Tel. 03-5573-4068

●雑誌「地域創造」第46号を発行しました



芸術文化を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌「地域創造」第46号を2021年1月31日に発行しました。今回の特集は、新型コロナウイルス感染症によって多大な影響を受けている中、新たな時代を切り開こうと奮闘している

3つの施設を紹介する「コロナ時代」と、改めて暮らしとともにあるアートについて3つのケースを紹介する「暮らしとアート」の2本立てです。このほか、コロナ禍の休館や公演中止にかかる設置主体との調整や対応、感染予防と対策への取り組み、表出した課題などを取り上げた座談会に加え、フランス、イギリスのコロナ支援策を

取り上げた「海外STUDY」など、多彩な事例をご紹介します。

◎特集1「コロナ時代」

- 兵庫県立芸術文化センター(兵庫県西宮市)
- ロームシアター京都(京都府京都市)
- コラム「劇場のコロナ特別プログラム」SPAC-静岡県舞台芸術センター(静岡県静岡市)

◎特集2「暮らしとアート」

- 「IDEA R LAB」(岡山県倉敷市)
 - 国立音楽院 宮城キャンパス(宮城県加美町)
 - 珠洲の大蔵ざらえプロジェクト(石川県珠洲市)
- #### ◎体験レッスン
- 公立文化施設職員・文化政策担当者へのノウハウ伝授
 - 江原河畔劇場にクラウドファンディングと地域での劇場づくりを学ぶ(兵庫県豊岡市)

◎空間のエスプリ

- 国際的事例のビジュアルレポート

- PFI方式で歴史的建造物を再生「弘前れんが倉庫美術館」(青森県弘前市)

◎SCOPE — 地域の注目事例レポート

- 東海市芸術劇場(愛知県東海市)
- パティオ池鯉鮒(愛知県知立市)

◎イラストSCOPE — 伝統芸能・古典芸能・祭りなど伝承の取り組みのイラストレポート

- 半世紀ぶりに甦った門付け芸 阿波木偶箱まわし(徳島県徳島市)

◎座談会

- 事業を前に進める“withコロナ”のマネージメント

◎海外STUDY

- コロナ禍におけるフランスの文化支援策 舞台芸術を中心に
- 文化生態系の連帯を深めた英国政府の新型コロナ支援

◎BOOK

- 『劇場・音楽堂等感染症基本対応チェックブック』

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailをお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 崎山・児島

●2021年5月号情報締切

3月15日(月)

●2021年5月号掲載対象情報

2021年5月～7月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

札幌芸術の森美術館

〒005-0864 札幌市南区芸術の森2-75

Tel. 011-591-0090 平井菊花

<https://artpark.or.jp/>

札幌美術展 アフターダーク

地域の美術家を紹介するシリーズ。今回はアーティストたちの創造の源泉でもある日没後(after dark)の“夜の時間”をテーマに札幌ゆかりのアーティスト11組による作品が展示される。また、野外美術館では3月14日まで雪中の野外彫刻を楽しむことができるかんじきウォークも開催中。

[日程] 2月27日～4月11日

[会場] 札幌芸術の森美術館

●山形県山形市

やまぎん県民ホール

〒990-0828 山形市双葉町1-2-38

Tel. 023-664-2220 清野由布子

<https://yamagata-bunka.jp/>

祈りの声 奏でる聲～聲明コンサート《花びらは散っても花は散らない》～

真言宗と天台宗とが宗派を超えて結成した「声明の会・千年の聲」に所属する総勢約30名の僧侶によるコンサート形式の聲明公演。仏の教えから導かれた日本最古の聲明曲『四箇法要』や、東日本大震災被災者が生前に詠んだ和歌に曲をつけた『海霧讃歎』(宮内康乃作曲)など、神秘的な祈りの響きを奏でる。

[日程] 3月6日

[会場] やまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館)

関東

●茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団

〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8

Tel. 029-227-8111 鴻巣俊博

<https://www.arttowermito.or.jp/>

オルガン・レクチャーコンサート Vol.2 廣江教授の謎解きファイル「タイトルの秘密」

オルガンにまつわるトークを交えたコンサート。2回目の今回は、オルガン曲のタイトルの秘密に迫るべく、演奏回数2,700回以上に上る水戸芸術館の「オルガン・プロムナードコンサート」の演奏曲目を独自に集計し、その結果を元に、東京藝術大学オルガン科の廣江理枝教授に演奏や図解を交えレクチャーしてもらう。

[日程] 3月7日

[会場] 水戸芸術館

●茨城県小美玉市

小美玉市四季文化館みの～れ

〒319-0132 小美玉市部室1069

Tel. 0299-48-4466 永井千穂

<http://minole.city.omitama.lg.jp/>

演劇ファミリーMyuオリジナルミュージカル『わが家の天ぷら』

みの～れで活動する住民劇団「演劇ファミリーMyu」が活動初期に上演した作品を13年ぶりにリメイク。思いがけず家族との時間が増え、改めてその存在が大きくなったこの時世に、家族のあり方と幸せとは何かを問うミュージカル。新型コロナの影響で10月の上演を延期したが、再始動後は感染症対策のため稽古や衣装合わせの一部をリモートで行っている。

[日程] 3月27日、28日

[会場] 小美玉市四季文化館みの～れ

●埼玉県和光市

和光市文化振興公社

〒351-0192 和光市広沢1-5

Tel. 048-468-7774 塚田美穂

<http://www.sunazalea.or.jp/>

左手のピアニスト智内威雄が贈るやさしい音楽

左手のピアニスト・智内威雄による親子で楽しめるコンサート。

第1部ではグリーグ、シューベルトといったクラシック音楽を、第2部では童謡・唱歌・古謡を、第3部では絵本の読み聞かせとピアノ演奏のコラボレーションを、約40分という短い時間ながらも堪能することができる。同日午後には大人向けのコンサートも実施予定。

[日程] 3月27日

[会場] 和光市民文化センター(サンアゼリア)



前回コンサートの様子

●東京都国立市

くにたち文化・スポーツ振興財団
〒186-0003 国立市富士見台2-48-1

Tel. 042-574-1515 島崎要子

<https://kuzaidan.or.jp/hall>

ストラヴィンスキー 兵士の物語 “眼で聴き、耳で観るものがたり”

多岐にわたる芸術の面白さを知ってもらい、新たな観客を育む試みのひとつである「くにたちデビューコンサート」シリーズの13回目。スペイン風邪が蔓延する中、第一次大戦後の社会変革と苦境の時代に生まれたストラヴィンスキーの傑作『兵士の物語』を、生演奏、朗読、バレエ、映像などを交えて、眼で聴き耳で観る物語として上演する。

[日程] 3月27日

[会場] くにたち市民芸術小ホール

北陸・中部

●新潟県柏崎市

柏崎市文化会館アルフォーレ

〒945-0054 柏崎市日石町4-32

Tel. 0257-21-0010 眞貝祐子

<https://www.artforet.jp/>

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

池辺晋一郎 音楽の不思議“文化とスポーツの出会い”トーク&コンサート

ホールのパートナーシップ・アーティストとして活動する作曲家・池辺晋一郎プロデュースの「音楽の不思議」シリーズ。東京2020オリンピック・パラリンピックを前に、前文化庁長官の青柳正規氏をゲストに迎え、文化とスポーツにまつわるトークをピアノデュオ・瀬尾久仁&加藤真一郎の演奏とともにお届けする。
[日程] 3月1日
[会場] 柏崎市文化会館アルフォーレ

●富山県南砺市

南砺市福野文化創造センターヘリオス
〒939-1576 南砺市やかた100
Tel. 0763-22-1125 野村斗萌
<http://nantohelios.jp/>

ヘリオス開館30周年記念 南砺市を描く絵画展

開館1周年に開催された、富山県出身作家による福野の風物や建造物を描いた作品を展示した「福野を描く12人展」はヘリオスのアート事業の基盤となっており、今回はその時に出品された作品とともに、さまざまな感性により南砺市を表現した作品を公募展示する。
[日程] 3月3日～14日
[会場] 南砺市福野文化創造センターヘリオス

●愛知県豊川市

豊川市文化会館
〒442-0841 豊川市代田町1-20-4
Tel. 0533-84-8411 宮嶋良拓
<https://www.city.toyokawa.lg.jp/shisetsu/bunkakyoiku/bunkakaikan/index.html>

若い翼コンサートvol.10 マリンバ&ヴァイオリン ジョイントコンサート

地域の若手アーティストを紹介し、応援するコンサートシリーズ。今回は、幸田町民会館の登録アーティストとしてアウトリーチ活動を行う手嶋莉子(マリンバ)と辻純佳(ヴァイオリン)が登場。舞台上に客席を設け、臨場感のある演奏を楽しむことができる。コンサート開催前には、市内小学校にてアウトリーチを実施予定。

[日程] 3月14日
[会場] 豊川市文化会館

●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団
〒440-0887 豊橋市西小田原町123
Tel. 0532-39-8810 大橋玲
<https://www.toyohashi-at.jp/>

市民と創造する演劇「甘い丘」

公募による市民出演者・スタッフとプロのスタッフによる市民劇。7年目となる今年度はPLAT芸術文化アドバイザーの桑原裕子が作・演出を務め、脚本は桑原が自身の劇団KAKUTAで2007・09年に上演し、第52回岸田戯曲賞の最終候補、そして再演時に平成21年度第64回文化庁芸術祭賞新人賞を獲得した作品に挑戦する。
[日程] 3月6日、7日
[会場] 穂の国とよはし芸術劇場PLAT

近畿

●三重県津市

三重県文化会館
〒514-0061 津市一身上津部田1234
Tel. 059-233-1100 小林由梨佳
<https://www.center-mie.or.jp/bunka/>
ミエ・演劇ラボ2021×烏丸ストロークロック ホニホニマー舎
「超現代」リーディング公演

公募で集まったメンバーが3年かけて長編作品をつくり上げることを目指し、2018年4月に始

まった「ミエ・演劇ラボ」。京都の劇団「烏丸ストロークロック」の柳沼昭徳・澤雅展を講師に迎え、“2025年、近未来の私たちを考える”をテーマに創作した作品を3年目の発表公演としてリーディング形式で上演する。後日収録映像をオンライン配信予定。

[日程] 3月7日
[会場] 三重県文化会館

●京都市

京都府立府民ホール“アルティ”
〒602-0912 京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1
Tel. 075-441-1414 森敦子
<https://kyotoaltihall.wixsite.com/aap202021>

「Re: つくもがみ」音楽×舞踊×映像Collaboration

「劇場を公開発表の場から創造の場にする」とを目的に2005年より発足したプロジェクト。近年は若い世代の人材育成も視野に入れ、市内の大学と舞台作品の共同制作を試みている。今回は、長い年月を経た道具や物に宿る精霊「つくもがみ」をテーマに、創作楽器を多用した音楽と映像、舞踊を用いて、物に愛情を持って接することの大切さを表現する。

[日程] 3月6日
[会場] 京都府立府民ホール“アルティ”

●堺市

フェニーチェ堺
〒590-0061 堺市堺区翁橋町2-1-1
Tel. 072-223-1000 永尾暁
<https://www.fenice-sacay.jp/>

人形浄瑠璃文楽“道行の美” ～名作「妹背山婦女庭訓」「曾根崎心中」より～

2つの名作の「道行」に焦点を当てた文楽公演。道行とは登場人物が目的地まで移動する道程を

文学的に描いた形式のことで、華やかな曲節で飾った場面や、心中物では悲しくも美しい心理描写がみどころ。桐竹勘十郎が昼と夜の役を替えて4役を務める。事前セミナーも開催し、あらすじなどの解説を行い、ゲストで勘十郎も登場する。

[日程] 3月19日
[会場] フェニーチェ堺

●神戸市

神戸アートビレッジセンター
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14
Tel. 078-512-5500 岡村有利子
<https://www.kavc.or.jp/>

ART LEAP 2020「特別的にできない、ファンタジー」

30～40歳代の芸術家を対象とした公募プログラム「ART LEAP」で、今年度選出された美術家・記録写真家の蓮沼昌宏による展覧会。主に絵画や手回し式のアニメーション装置「キノウラ」を用いて表現する蓮沼が、新型コロナウイルスの影響で今誰もが感じている“特別的にできない”状況による“さみしさ”をインスピレーションに、神戸でのリサーチを元に新作を発表する。

[日程] 2月20日～3月14日
[会場] 神戸アートビレッジセンター

●兵庫県西宮市

兵庫県立芸術文化センター
〒663-8204 西宮市高松町2-22
Tel. 0798-68-0223 川中暁子
<https://www1.gcenter-hyogo.jp/>

宮城道雄の世界 和と洋が響きあう～「春の海」

神戸市出身の箏曲家・宮城道雄は、西洋音楽のメソッドを取り入れた作曲も行っており、代表作『春の海』はヴァイオリンとの合奏により世界的名声を得た。今回は、宮城の楽曲と彼が愛した西洋の音楽を、箏、ヴァイオリンおよび舞で紹介するとともに

に、宮城の来歴についても解説する。なお、緊急事態宣言を受け、入場者数は収容定数の50%以下としている。

[日程]3月7日

[会場]兵庫県立芸術文化センター

●兵庫県豊岡市

豊岡市民プラザ

〒668-0031 豊岡市大手町4-5
アイティ7F

Tel. 0796-24-3000 居相歩美

<http://platz-npo.com/>

大駱駝艦・田村一行舞踏公演 『舞踏 但馬風土記』

大駱駝艦の田村一行が振付・演出・美術を手がける、市民参加型の舞踏公演。但馬の地で生活する人々や風土からインスピレーションを受け創作された過去3年間の舞踏作品を再編し、2日間の日程で前編『赫の章 日槍拾遺譚』、後編『蒼の章 異界の末裔』を上演する。市民参加者8名と舞踏手6名が9日間のクリエーションを経て公演に臨む。

[日程]3月27日、28日

[会場]豊岡市民プラザ

中国・四国

●鳥取県鳥取市・湯梨浜町

鳥取県文化振興財団

〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5

Tel. 0857-21-8707 牧原瑠美

<http://www.torikenmin.jp/>

MUSIC ENCOUNTER～アーティストたちの協演～(Part2・3)『私の町の小さな演奏会』

鳥取県の補助事業「とっとり発コロナ危機打破!アート活動支援事業」の一環で開催されるクラシックコンサート。鳥取と縁が深いピアニスト・大井駿をはじめ、ヨーロッパで活躍中の若手アーティストと県内の高校生によるコンサートを2会場で開催。後日YouTubeで配信も行う。

[日程・会場]3月5日:とりぎん文化会館、6日:ハワイアロハホール

●香川県高松市

サンポートホール高松

〒760-0019 高松市サンポート2-1

Tel. 087-825-5010 多田歩

<https://www.sunport-hall.jp/>

オペラ『扇的的』 ゆかりのコンサート

サンポートホール高松開館10周年事業として、2014年にオール香川で創作・上演されたオペラ作品『扇的的』。今回は、源平屋島合戦を描いた同作品のハイライトを再演するとともに、新作続編である『『扇的的』青葉の笛編～一ノ谷合戦～』の一部公開と経過報告を行う。新作では、源義経の奇襲「逆落し」でも知られる合戦の名場面をオペラ化。

[日程]3月21日

[会場]サンポートホール高松

●香川県観音寺市

ハイスタッフホール(観音寺市民会館)

〒768-0060 観音寺市観音寺町甲1186-2

Tel. 0875-23-3939 大谷智津

<https://www.kanon-kaikan.jp/event/>

観音寺こどもミュージカル劇団 TOTE・TON旗揚げ公演 ミュージカル『夢つむぎの詩』

2017年の開館記念事業として開催して以来、毎年市民ミュージカルを開催してきたが、昨年度新たに子どもだけのミュージカル劇団を結成。昨年3月に予定していた旗揚げ公演が新型コロナの影響で延期され、1年越しに上演が実現した。物語は山の分校を舞台に、懐かしい童謡と唱歌のメロディと歌に乗って、友情を育んでいくファンタジー。

[日程]3月14日

[会場]ハイスタッフホール(観音寺市民会館)

●愛媛県松山市

愛媛県美術館

〒790-0007 松山市堀之内

Tel. 089-932-0010 石崎三佳子

<https://www.ehime-art.jp/>

えひめ視覚障がい者をつくる 「みることを考える」プロジェクト 『みる冒険』

視覚障がい者と共に美術を鑑賞することや、視覚以外の美術の楽しみ方について探ってきた取り組みを報告し、来館者にいつもと違った「みる」体験や考えるきっかけになることを願って実施する展覧会。視覚だけでは得られなかった気づきや他者の視点を共有し、新たな「みる」冒険の始まりとなることを目指す。

[日程]2月6日～3月7日

[会場]愛媛県美術館

九州・沖縄

●福岡市

ぼんプラザホール

〒812-0038 福岡市博多区祇園町8-3 ぼんプラザ

Tel. 092-262-5027 仁田野麻美

<https://kibirufes-fuk.localinfo.jp/>

キビるフェス2021

福岡演劇フェスティバルを引き継いで2017年から始まった演劇祭。福岡の方言で「結ぶ」「つなぐ」を意味する「きびる」を掲げ、市内の音楽・演劇練習場が連携し、市内外の演劇団体を招聘して開催している。5回目の今回は、福岡からモノクロラセン、ケッチのほか、ひなた旅行舎(東京・宮崎)を迎え、3月は世界劇団(愛媛)が新作を上演する。

[日程]1月29日～3月7日

[会場]パピオビールーム、ぼんプラザホールほか

●大分県大分市

大分県芸術文化スポーツ振興財団

〒870-0029 大分市高砂町2-33

Tel. 097-533-4004 八坂千景

<http://www.emo.or.jp>

iichiko グランシアタ・ジュニア オーケストラ 第12回定期演奏会

2009年4月に結成されたジュニアオーケストラの定期演奏会。今回は宮崎県出身の若手指揮者・山脇幸人と、大分県出身の龍笛奏者・メ野護元を迎え、「西洋音楽発祥の地プロジェクト」の一環として、隠れキリシタンの文化に着想を得て、彼らによって歌い継がれた音楽が元となった伊藤康英作曲の交響詩『ぐるりよぎ』(管弦楽版)のほか、ドヴォルザーク作曲『新世界より』などを演奏。開演前には初心者クラスであるアカデミー生によるウェルカムコンサートも開催される。

[日程]3月28日

[会場]iichiko総合文化センター

●鹿児島県湧水町

鹿児島県霧島アートの森

〒899-6201 始良郡湧水町木場6340-220

Tel. 0995-74-5945 久保孝彰

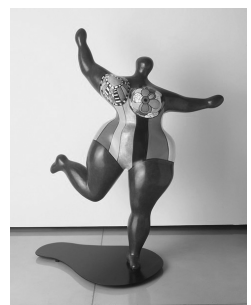
<https://open-air-museum.org/>

春のコレクション展

屋内所蔵作品による展覧会。磁器の絵付技法の中でも細やかで優美なモチーフで飾られているアー・シャンの《チャイナ・チャイナ・シリーズ 胸像 no.47》、静謐な雰囲気を持つオノ・ヨーコの《絶滅に向かった種族(2319-2322)》など10点以上を展示。豊かな自然の中の美術館で作品鑑賞を楽しむことができる。

[日程]2月23日～4月11日

[会場]鹿児島県霧島アートの森



ニキ・ド・サンファル《青色のドーン》(1995)

▼今月の情報(アートセンター編)

新たにオープンした公立のアートセンターを紹介します

アートセンター情報

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアートセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●岩手県陸前高田市 陸前高田市民文化会館 (奇跡の一本松ホール)

〒029-2205 陸前高田市高田町字館の沖77

Tel. 0192-22-9666

<https://www.takata-cityhall.jp>

◎2020年4月11日オープン



東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市民会館と陸前高田市民中央公民館が、市民会館機能と中央公民館機能を併設した複合施設として再建され、震災から9年1カ月後にオープンした。

会館の愛称は地元の各種団体の代表者や高校生、中学生らでつくる選考委員会が、865点の応募作品の中から選考。津波に耐えて残ったことで復興への象

徴として全国的に知られる「奇跡の一本松」にちなんで名付けられた。

640席のホールは旧市民会館時代と同じく舞台奥行きや舞台袖を広げ、オーケストラコンサートをはじめ多彩なイベントに対応できる設計となっており、緞帳には「奇跡の一本松」が描かれている。

そのほかにも実習室や和室、防音構造の練習室も備え、文化芸術および生涯学習の場として、そして市民と協働して広く世界へ陸前高田の「想い」を発信する拠点として、市民に愛される施設を目指していく。

[オープニング事業]陸前高田市民文化会館開館記念コンサート
[施設概要]ホール(640席)、ルーム1・2・3、和室、練習室、実習室ほか

[設置者]陸前高田市
[管理・運営者](株)共立メンテナンス

[設計者]NTTファシリティーズ / 関・空間設計共同体

●山形県山形市 やまぎん県民ホール (山形県総合文化芸術館)

〒990-0828 山形市双葉町1-2-38

Tel. 023-664-2220

<https://yamagata-bunka.jp/>

◎2020年5月13日オープン



文化芸術活動、多様な交流、県の魅力発信の拠点として、県内最大規模のホール、県産品を扱うカフェやアンテナショップを備えた複合文化施設。県民に愛着を感じてもらうため、建設作業体験などのプレ企画を工夫。コロナ禍の影響で約2カ月遅れての開館を迎えた。

大ホールは、プロセニウム形式と音響反響板形式の両方に対応し、オーケストラピットの設営も可能。10室ある楽屋や舞台裏のラウンジなど出演者用の設備も充実しており、ホールの響きは演奏家から好評を得ている。なお、山形組子や米沢織、山形緞通、天童木工などの山形の技や、反響板や館内の壁面に使われる県産木材など、施設全体で県の魅力を表現。建物が囲む広場ではマルシェも実施できる。

充実した設備を活かして地域全体のにぎわい創出と交流人口の拡大を目指す。

[オープニング事業]新国立劇場バレエ団「白鳥の湖」、合唱の祭典ほか

[施設概要]大ホール(2,001席)、スタジオ1(175m²)・2(193m²)ほか

[設置者]山形県
[管理・運営者]みんぐるやまがた
[設計者](株)本間利雄設計事務所

Topics 文化・芸術活動を通して地域活性化を図る大分市「アートレジオン推進事業」

2020年4月1日、旧大分市立野津原中部小学校の一部がアトリエとしてオープンした。2018年3月に閉校した小学校が、大分市における「アートレジオン推進事業」の取り組みのひとつとして活用されることとなった。

この事業は、人口減少や少子高齢化が進む周辺地域に大分市内外からアーティストを呼び込み、アートイベントや制作活動等を通して文化・芸術の振興を図るとともに、地域住民との交流を促進することで地域の活性化に繋げることを目的としている。事業の柱は「アートイベントの開催等による地域の活性化」と「アーティストの移住・定住促進」。アトリエ利用アーティストや地域おこし協力隊と協力し、過疎が進む地域でのアートイベントの開催などを行っている。

アトリエとしてオープンした旧野津原中部小学校では、広々とした教室を一部屋まるごと使用できるため、大きな作品の制作も可能。アーティストは、自然に囲まれた環境の中で創作活動を行

いながら、地域住民との交流を図り、アトリエの公開や作品展示、ワークショップ等を実施する。2018年5月から同じくアトリエとして活用されている旧大志生木小学校も含め、文化・芸術活動を中心として、地域交流や地域の活性化に繋がる拠点となることが期待されている。

●旧野津原中部小学校

[所在地]〒870-1211 大分市大字竹矢2108-1

Tel.097-537-5663(大分市文化振興課)



大分市中心部から車で30分ほどの野津原地区に立地する

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

横浜市

横浜ダンスコレクション2021



上:高橋明登「幻モキュメント」/下:表彰式
Photo:菅原康太

●横浜ダンスコレクション2021

【会期】2021年2月4日～21日

【会場】横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜にぎわい座のげシャレほか

【主催】横浜赤レンガ倉庫1号館〔(公財)横浜市芸術文化振興財団〕

【共催】在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

*1 コンペティション(2021)

I:国籍・年齢制限なく公募。映像・書類審査を経て選ばれたファイナリストによる本選で、審査員賞/若手振付家のための在日フランス大使館賞/城崎国際アートセンター(KIAC)賞/アーキタンツ・アーティスト・サポート賞/奨励賞の各賞を選考。II(新人振付家部門):日本在住で25歳以下の新人を公募。同じくファイナリストによる本選で、最優秀新人賞/アーキタンツ・アーティスト・サポート賞/奨励賞/ベストダンサー賞の各賞を選考。Iの審査員賞とIIの最優秀新人賞の受賞者が次年度のダンコレで新作を発表。※賞は年度によって異なる。

*2 日本ダンスフォーラム(JaDaFo)

評論家、学者、研究者、プロデューサーなどの舞踊関係者により2003年から活動。年間賞として「日本ダンスフォーラム賞」を選考。

*3 それまでは青山劇場や草月ホールで国内推薦会を開催。1996年、横浜市芸術文化振興財団の主催事業に移行。2003年より横浜赤レンガ倉庫1号館を会場に開催。

*4 公募で一定の活動実績のある振付家を選出し、2年間支援する。年上限200万円の制作・上演活動支援、創作活動・上演活動・教育普及および社会包括活動・アーカイブの支援。審査員には横浜赤レンガ倉庫1号館のほか、KAAT神奈川芸術劇場事業部長、横浜美術館館長、横浜みなとみらいホール館長、横浜にぎわい座館長などが名を連ねる。

横浜赤レンガ倉庫1号館(運営:(公財)横浜市芸術文化振興財団)が主催する「横浜ダンスコレクション(通称:ダンコレ)」が今年で26回目を迎えた。コンペティション(*1)を柱としてコンテンポラリーダンスの振付家やダンサーを発掘・育成し、これまでに約400組がファイナリストとして作品を上演。110組を超える受賞者が国内外で活躍するなど、日本のダンス界で重要な役割を果たしてきた。今年度はコロナ禍による移動・渡航の制限からプログラムや内容の変更を余儀なくされたものの、無事会期を終了した。

今年度は、コンペティションI・II、昨年度の受賞者公演、国際プログラム(コロナ禍のため映像作品に変更)、屋外で行う「青空ダンス」(今回は映像配信による開催)、日本ダンスフォーラム(JaDaFo)(*2)によるシンポジウム、「振付家のための構成員養成講座」などを実施。コンペティションには12の国と地域から121組の応募があり、I・IIで4カ国22組のファイナリストが上演審査に臨んだ。審査の結果、Iの審査員賞は高橋明登、IIの最優秀新人賞は女屋理音に決定。本選では、「次の波」の到来を予感させる若い才能が多く見られた。また、ビデオ参加作品からも受賞者が出るなど、危惧された公平性も許容される範囲でコロナ禍に対応していた。

青山劇場でコンテンポラリーダンスの事業に携わり、2016年から横浜赤レンガ倉庫1号館の館長を務める小野晋司は次のように振り返る。

「移動制限で本選に参加できなかった人は、ホールに等身大の映像を投影して審査しました。苦肉の策ですが、今後の新しい可能性を示すものになるという好意的な意見もありました。コロナ禍でもアーティストは創作を止めることはできない。我々はいかに安全性を確保しながら上演していくかを考え続ける必要があります。また、日本のダンスでは構成員の弱さがかたが指摘されていたことから、過去の受賞者を対象にした構成員養成講座を始めました。ベルギーのアラン・プラテルと韓国キム・ジェドクがメンター、北村明子がファシリテーターです。プラテルとジェドクは来日公演を予定していま

したがコロナ禍でかなわず、映像に変更しました」

そもそもなぜ横浜でダンコレが立ち上がったのだろうか。日本でまだコンテンポラリーダンスという言葉が定着していなかった1990年代、世界のコンテンポラリーダンスを牽引していたのがフランスのパニョレ国際振付コンクールだった。その芸術評議員を務め、日本のアーティストを推薦していた青山劇場の高谷静治と横浜市芸術文化振興財団の石川洵(2003年に横浜赤レンガ倉庫1号館館長に就任)がキーパーソンとなり、横浜の新たな取り組みとして、96年、横浜ランドマークホールで第1回ダンコレを開催した(*3)。

「当初は受賞者がパニョレに出場できることが事業の核でした。そこから伊藤キム、白井剛、梅田宏明など世界的に活躍する人が出てきた。しかし、パニョレが『セーヌサントニ国際振付家による出会いの場』に名称を変更してフェスティバルにシフトしたことにより、ダンコレも見直す必要が出てきた。2000年代に入り、『ソロメデュオ・コンペティション』を立ち上げ、フランスにレジデンスできる『若手振付家のための在日フランス大使館賞』を創設したり、試行錯誤しました。その中で海外との連携を強め、昨年は、日本・中国・韓国のフェスティバルが連携して各国持ち回りで開催している『HOTPOT(東アジア・ダンスプラットフォーム)』の第3回をダンコレと同時に開催しました。こうしたプラットフォームにより海外のダンスコミュニティに日本のダンサーを後押しできればと考えています。この他、アジアのダンス関係者と連携した『アジア・ネットワーク・フォー・ダンス(AND+)』も始めました」(小野)

横浜赤レンガ倉庫1号館では今年度新たに「振付家制度」(*4)を始動させた。また、来年度からはTPAM(国際舞台芸術ミーティング in 横浜)との連携をさらに強化することも決まっているとか。「ダンスのさまざまなプログラムを多層的に重ねていくことで、この規模の施設ができることのモデルをつくっていきたい」という小野の言葉に期待が高まった。

(舞踊評論家・乗越たかお)